

異学年交流の充実

小学校と中学校を1つの学校とすることで、同学年だけでなく、小中学校の枠を超えた、学年の違う子ども同士の交流がしやすくなります。また、運動会や文化祭・学芸会などの学校行事を小中学校で連携して行うことで、行事の盛り上がりが期待できるとともに、上級生が下級生を手伝ったり、下級生が上級生を見習ったり、みんなのために行動するという意識が高まります。

教員の連携強化

前期課程と後期課程の教員が日常的に連携することで、指導方法や理解度を共有できます。また、9年間の学びをつなげて考えることで、多様な指導体制をとりやすくなります。さらに、前期課程と後期課程の教員が相互の乗り入れ授業をすることで、小学校から中学校へ入学した時の環境の変化になじめずに、不登校や不安定な状態になる「中1ギャップ」が解消できます。

西浦学園ならではの「グローバル教育」

? グローバル教育とは

Global（世界）と **Local**（地域）を組み合わせた言葉で、国際的な視点を持ちながら地域社会に貢献できる子どもを育てる教育

01

NISHIURA STUDY

地域の自然や産業、文化を教材として活用し、特色ある学びを展開します。また、「西浦の日」を設け、子どもたちの学びを保護者や地域と共有します。



02

英語教育

ALT や外部講師を活用し、ネイティブスピーカーと交流する機会を設けます。英語検定にも取り組み、夏休みにはオンライン英会話学習を行います。



03

情報教育

地元企業や外部講師による、ドローン操作の体験やプログラミングの作品づくりなどを通じて、情報活用能力や課題解決力を育みます。



+α

教科担任制

一般的に、小学校は学級の担任が全教科を教える学級担任制ですが、西浦学園では教科ごとに専門の教員が授業を行う教科担任制が5年生から始まります。

より専門性の高い授業で
学力アップ&多くの教員
の目で学びを支援